

理科・環境教育助成 成果報告書

第2回 期間：2004年11月～2005年10月

氏名：橋詰 幸樹

所属：カワセミ自然の会

課題名：水辺遊びを通じた河川生物の観察方法の開発 ～真野川をさかのぼろう～

課題の主旨

- ①「真野川」をさかのぼる中で、子どもたちが川（身近な自然）に親しみ、川（身近な自然）の面白さや不思議さに触れられるようにしたい。また、その「魅力」を実感することにより、身近な自然に愛着を持ち、「真野川（身近な自然）を大事にしたい！」という気持ちを持つようにさせたい。
- ②活動の記録を冊子（野外で使えるもの）にまとめ、配布することにより、真野川のすばらしさをできるだけ多くの方々に再認識してもらいたい。

1. 活動状況

私たちカワセミ自然の会では、1991年より、琵琶湖西岸（湖西）の里山で、自然観察会を開催してきた。観察会で何度も訪れている真野川には、上流部の宅地開発に伴う河川改修が、以前から計画されている。「真野川」のすばらしさをできるだけ多くの方々に知ってもらいたいと、「河口」から「源流部」まで6回に分けて観察会を行ったり（「真野川自然探険」として冊子にもまとめた）、逆に「源流部」から「河口」へと探険したりするなど、「真野川」では定期的に観察会を続けてきた。

いよいよ工事の着工が近づき、「ぜひ、真野川をもう一度さかのぼりたい」、「川の中を歩きたい」と、スタッフや参加者から声が上がリ、一昨年度から「真野川をさかのぼろう～真野川自然探険～」という観察会を行っている。昨年度とあわせ、3回の観察会を行い、中流部までさかのぼってきている。

今回は、その続きの観察会を、5月・7月・9月に開催し、「3回シリーズ」として行った。上流を目指しさらにさかのぼっていく中で、「真野川」のすばらしさを、さらに多くの方々に知ってもらおうと考えた。

昨年度までの観察会で、川を歩く（さかのぼる）のは、大変楽しく、魅力的ではあるが、「大きな危険」を伴うことが良くわかった。そこで、この観察会を実施する際は、入念な下見を行い、小さい子にはライフジャケットを着用してもらおうことにした。できる限り、十分に注意を払って実施してきた。

2005年度「真野川をさかのぼろう」第1回（通算4回目）～家田橋から上流へ～ 5/28（土）

○5月という水温が低い時期での活動となったが、久しぶりの「真野川をさかのぼろう」で、参加の子どもたちは、冷たさ（寒さ）に負けず、大変積極的に活動していた。小さい子も、助成金で購入したライフジャケットを着用していたので、安心してさかのぼることができた。まず、感動したのがヨシボリのたくさんの卵。本で読んでいた通り、オスのヨシボリが、石の下で卵をじっと守っていたのが印象的だった。スタッフも参加者の方々も、できるだけ石を踏まないように（たまごをつぶさ

ないように) 気をつけて歩いた。

また、助成金で購入した丈夫なタモ網のおかげで、今までなかなか見つけられなかった稚魚を含め、大変たくさんの生き物を見つけることができました。その数の多さ、種類の多さに驚いた。きれいなシマドジョウや大きなカマツカにも会うことができました。(通信 No 76 参照)

2005年度「真野川をさかのぼろう」第2回(通算5回目)～北海橋から上流へ～ 7/3(土)

○7月。夏休みに入って最初の土曜日。天気は、曇り時々晴れ。暑すぎることもなく、「川のぼり」にちょうど良い日になった。前回に続き参加している子が多く、川に入ったときに「あんまり冷たくない」「予想していたよりあったかい」などと、前回(5月)との水温の違いに驚き、喜びを素直に表現していた。前回、水際で子どもたちの様子を見ておられた保護者の方々も、楽しそうに活動する子どもたちに刺激を受けた様で、今回は、大人の方々も全員川に入っただけの観察となった。

今回もたくさんの生き物に会うことができました。4匹の大きなカワムツや希少種に指定されているカネヒラ、ヨシノボリにシマドジョウ、コヤマトンボ・コオニヤンマ・トビケラ・ヘビトンボなどなど。

川幅が狭くなり、流れが強くなっている場所で、今回は「川で流れる」体験をしてもらった。ライフジャケットをつけているので安心だ。初めての体験で躊躇していた子どもたちも、スタッフやすでに経験している子どもたち促されて、おっかなびっくり流れにのって流されていく練習を試みるうち、どんどんどんどん積極的になっていった。流れた後の大変満足そうな顔が印象的だった。(通信 No 77 参照)

2005年度「真野川をさかのぼろう」第3回(通算6回目)～荒木橋から上流へ～ 9/10(土)

○下見の際、「川を流れるマムシ」を含め、数匹のヘビと、いくつものヘビの抜け殻に出会い、悩んだ末、安全確保のために場所を変更した。パート2で訪れた「荒木橋より上流」をめざすことにした。2度目の観察会となったが、発見も多く、充実した観察会となった。網を入れてみると、大きなアカザが入った。もしかすると**彼**とは、前回(パート2)の観察会で出会っているかもしれない。

このシリーズ観察会を通して、「あそこには、あの魚が**住んでいる**んやで」「あの場所に行くと、あの生き物に会えるよ」などということが少しずつわかってきた。それがこのように、何度も同じところを観察する**シリーズ観察会**の魅力のひとつであると思う。

今回は、途中2つのグループに分かれ、1つのグループだけが川をさかのぼることにした。前回の観察会で岸に上がったところも、今回はライフジャケットを着用しているために、川の中を歩くことができた。ただ、その深さには改めて「川の恐さ」を感じさせられた。参加者の方々も、「川は、上から見ていて創造するのと、中(底)を歩いてみるのとでは、ずいぶん様子が違う」ということを実感することができただろうと思う。

今回の「川流れ」には、大人の参加者の方々も挑戦され、とても楽しそうに流れていかれた。川は本当に魅力的だ。「川(自然の中)では、大人も子どももない。川(自然)は、みんなを楽しませてくれる」この観察会を通して、強くそう感じた。(通信 No 78 参照)

《参加者の感想》

ぼくは、初めはぜんぜんとれなかったけど、流れの速いところで一匹つかまえました。もう一匹とれました。あみを川のそこにつけて石をどかすと、ヨシノボリがつかまえられました。陸で水に近い所の石をどかしたら、カニがいました。カニはもう一匹とれました。石の上からとびこんで入るのがすごく楽しかった。寒かったです。

《上原陽人 4年》

今回のカワセミ（自然の会の観察会）では、ぼくはけっこうカワムツを捕っていました。カワセミ（自然の会の観察会）とかで、自然とふれあっていると、すごく「自然はいいなー」と思います。あの後、齋藤君がもらって帰った魚はすぐに死んじゃったそうです。

ぼくが、まんだら池（の小さな池）で、メダカ（クロメダカ）を4匹捕ったら、それがすごく卵を産んで、今、稚魚が40匹以上はいます。無事育ってくれたらいいと思います。

今回のカワセミ（自然の会の観察会）は、もうやばいほど寒かったし、楽しかったです。泳ぐのにもかなり勇気がいりました。でもいろいろな魚、は虫類（カメ）、水生昆虫等が見（ら）れて、良かったと思います。

《上原郁人 6年》

子どもがイキイキとした顔で、楽しく学び、「あ〜、楽しかった！」と心から思える活動に参加させていただいて、いつも喜んでおります。学校では、人数的になかなか危なかったり、家庭ではそこまで出来なかったり、また、いつも専門的知識を持たれている方も参加していらっしゃるの、いろいろ詳しい話も聞ける、カワセミはアットホームな素敵な会です。

《上原淳子》

寒かったけど、いろいろな魚がいたし、よかったです。次行くときは、もっといろんな魚が見（ら）れるといいです。楽しみで〜す。

《山本ゆりな 4年》

カワセミ（自然の会の観察会）で、最近楽しかった事は、「魚とり」と「川流れ」です。魚はぼくがとった中で一番大きいカワムツがとれました。あんなにデカイとは思いませんでした。もう一つは「川流れ」です。プカプカうきながら、ただよっていました。でもときどき水が「バシャーン」と言う事もありました。でも前回（9月）は、水温が冷たくてできませんでした。来年もやりたいです。

《米田迪彦 6年》

（スタッフの）大谷さんと「川ながれ」。思ったよりもながされた。まの川はおもしろい。さかなも水せいこん虫もたくさんいるが、やっぱりぼくは、「川ながれ」が一番すきです。

《米田 淳 2年》

一ばんさいしょは、水がつめたくておよげなかったけど。あとからどんどんなれてきたので、およげるようになってきました。およぐのはとてもたのしかったです。水せいこんちゅうやさかなをとったり、水そうの中のさかなや水せいこんちゅうをみたりしてたのしかったです。

《橋詰奈奈 1年》

「川をさかのぼる」のは、水が冷たくて大変だったけれど、どんだんのぼって行くと、冷たさにもなれて、楽しい気持ちになった。ヨシノボリの卵は、つぶつぶで、ひとつひとつが光っていて、とってもきれいだった。

魚や水生昆虫をとるのも楽しかったけど、泳いだり、川を流れたりしていることが何より楽しかった。来年もまた行きたい。

《橋詰知輝 5年》

2. 結果

子どもたちの感想にも見られるように、このシリーズ「真野川をさかのぼろう」は、大変充実した「観察会」になった。その充実ぶりは、参加者のリピーターの多さからも伺える。

15年間、様々なやり方で「観察会」を開催してきたが、このシリーズほど、子どもたちが生き生きと活動し、「次の観察会」を楽しみにしてくれた観察会は、なかったように思う。

毎回たくさんの生き物に出会い、新たな発見があり、「さらに上流にさかのぼっていく」という、次の目標が、はっきりしていたことが、このシリーズの良かったところだと思う。

また、ライフジャケットをつけ、足がつかないようなところをのぼったり、生まれてはじめて川で泳いだり、「川流れ」を体験できたりしたことも、このシリーズの魅力であったらと思う。

この取り組みは、間違いなく「成功した」と考えられる。

3. 今後の課題と発展

この活動の目標は、充実した「観察会」を行うだけでなく、「この観察会の楽しさ・おもしろさ」そして「真野川のすばらしさ」を伝えていくことにある。活動の記録を子どもたちにも読みやすく、使いやすい冊子にまとめたいと考えている。できるだけ早く完成させ、多くの人たちに読んでもらい、使ってもらえたらと思う。

4. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

できるだけ早く、記録の冊子を作りたいと思います。